笑顔のひろば

vol. 35
2017年　新春号
川崎協同病院
広報誌
http://www.kawasaki-kyodo.jp

座談会　新春に問う

シームレスな地域包括医療の実現を目指して

　地域医療の在り方は、今後どのような形が望ましいのか。新しい年を迎え、「シームレスな地域包括医療の実現を目指して」というテーマで、川崎協同病院の実像を踏まえながら語り合いました。（事務次長　宗和弥）

参加者：田中 久善（院長）、藤井 朗（事務長）、八木 美智子（看護部長）、藤田 洋子（組合員理事）

（注）シームレス：seamless（継ぎ目のないこと）

藤井　最初に田中院長、2016年10月から転換した地域包括ケア病棟の特徴はどのようなものでしょうか。

田中　これまでの急性期病棟としての6階病棟（従来産科・小児科）、5階病棟（内科急性期）から転換しました。超高齢社会を迎え、地域包括ケアシステムが重要視される中で、在宅復帰を支援する病棟機能として重要な役割をもつ病棟となります。

地域包括ケア病棟では、急性期治療を経過した患者さんや、在宅で療養を行っている患者さんの受け入れと在宅に帰るまでの支援を行うことが位置づけられています。急性期治療を経過した患者さんは、協同病院では急性期3階病棟から転棟されてくる方と、他院急性期病棟から転院されてくる方が含まれます。こうした本来地域包括ケア病棟に適応する方以外に、当院では大腸内視鏡検査や透析を受けるシャント拡張手術といった短期滞在手術基本料の対象となる方も、この地域包括ケア病棟を利用しています。

藤田　どういった患者さんが利用しているのですか？

田中　新入院数は10月86人、11月104人です。即日入院の内訳は、10～11月は71人で、受け持ちの科別にみると内科・小児科が大半を占めました。また即日入院のうち法人外紹介率は11%でした。即日入院時の疾患では、小児科では肺炎・急性胃腸炎が大半を占めました。内科では、肺炎・脱水・急性胃腸炎・尿路感染症・発熱が主因でした。

予約入院内訳をみると、10～11月では予約入院数104人のうち6割が大腸内視鏡の検査入院で、3割が治療入院でした。また、治療入院の入院経路は、法人内が84%、法人外は16%でした。

田中院長

藤井　看護部門ではこの病棟が開棟されたことで変化したことはありますか。

八木　患者さんが入院した時からその人の退院を意識して関わるようになりました。医師、看護師だけではなく、リハスタッフや、栄養士や、介護福祉士などあらゆるスタッフが連携して患者さんの退院にかかわり、話し合いも活発になりました。まさにチーム医療が重要です。

藤田　「急性期」とか「地域包括」とか病院の言葉は一般の人はわかりにくいです。私は何度か説明を聞いてやっと地域包括ケア病棟はいろんな患者さんを受け入れてもらえる病棟だとわかりました。具体的にはどんな人なら入院できますか。

藤田組合員理事

八木　当院の地域包括ケア病棟は、当院の急性期の病棟から移る人や、市内の他の病院で急性期の治療がある程度落ち着いた患者さんが、自宅で生活できるよう、必要な準備をするために入院できます。在宅で療養している患者さんが少し具合が悪くなったときなども入院できます。また小児の患者さんも入院できます。当院には、手術など必要な治療ができる急性期病棟、急性期を過ぎて慢性期となった患者さんが入院する障害者病棟、リハを中心に行う回復期リハ病棟、在宅で生活できるまでの支援を行う地域包括ケア病棟があり、さまざまな患者さんを受け入れることが可能です。

藤田　地域包括という点では、病院への入院だけでなく、もっと身近で困ったことを相談しやすい病院であってほしいですね。例えば相談員（ソーシャルワーカー）の班会参加などを進めてほしいと思います。かかりやすさという点では外来待ち時間の短縮、組合員サービスという点では乳がん・子宮がん検診組合員枠の拡大など、地域の声を聞くと病院にさまざまな期待があります。

藤井事務長

地域の要望に応えられるように

八木　コンシェルジュとして外来に立っていると、相談などさまざまな声が寄せられます。地域に開かれた病院、地域の方がちょっと立ち寄れる場所の必要性を感じます。病院も地域のよろず相談場所になるよう努力が必要ではないでしょうか。

田中　従来多くの病院では、自己完結型医療を目指していました。昨今は、それぞれ病院の特色を生かしながら、地域病院同士の医療連携を通し地域包括ケアを目指しています。

当院では、入院では２次救急までの急性期治療・地域包括ケア病棟・回復期リハ病棟・慢性期病棟機能をもち、外来では協同ふじさきクリニックとの連携で往診診療を行う一方、介護系事業所のネットワークを生かしながら、シームレスな医療・介護を展開できる地域密着型病院を目指しています。地域の患者さん、組合員さんの生活に身近な病院でありたいと思っています。

藤井　超高齢社会を迎え私たちの役割はますます大きくなってきています。組合員さんと一緒に誰もが安心して暮らせるように役割を果たしていきたいと思います。

八木看護部長

地域包括ケア病棟開設のご案内

川崎医療生活協同組合　川崎協同病院

～暮らしを支える 地域に頼られる病院でありたい～

当院では、昨年 10 月からの地域包括ケア病棟を開設いたしました。

地域包括ケア病棟とは、急性期治療を一定終了し、在宅までの療養を準備する患者様、あるいは在宅療養中の患者様の軽症疾患での入院等を受け入れる病棟です。その他、内視鏡的治療やヘルニアなどの短期滞在手術の患者様も対象となります。

地域で急性期治療を行っている大きな病院とも連携をはかり、急性期治療後の患者様も受け入れていこうと考えています。

当院は、急性期病棟・回復期リハ病棟・慢性期病棟 (障害者病棟)・地域包括ケア病棟の４つの機能をもった病棟構成を特色とした病院となります。

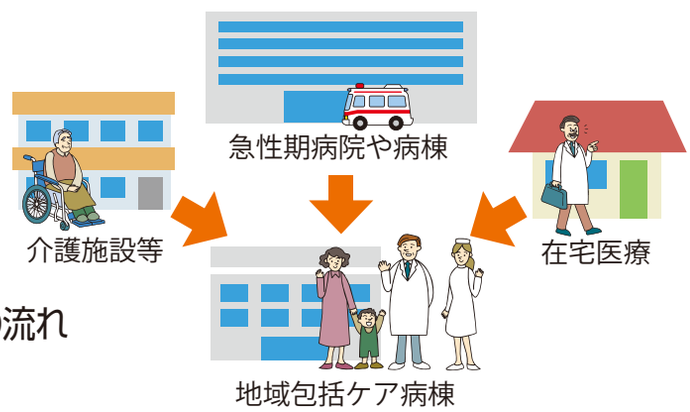
これまで以上に地域の医療機関・事業所とも連携をはかり、とうした特色を生かしながら、地域医療の発展に寄与できるように頑張っていきたいと考えております。患者様にとりましても、入院・リハ・在宅復帰・（通院不能な場合には）訪問診療などシームレスな地域包括医療の実践可能な病院を目指しています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長　田中久善

■地域包括ケア病棟とは

急性期の診療を経過し、状態が安定した患者さまで、すぐにご自宅や施設に復帰するには不安がある患者さまに対し、引き続き在宅復帰などへ向けて治療・看護・リハ等を行い、安心して退院していただけるように在宅支援を行うことを目的とした病棟です。また、在宅療養中の患者さまが、軽症やレスパイト目的で入院が必要となった時、在宅医より依頼を受けて支援もおこなう病棟です。

■川崎協同病院　地域包括ケア病棟の概念図



地域包括ケア病棟の患者さまの受け入れ(転院)の流れ

転院までの流れ

1. 下記の通り、地域連携室までお電話にてご依頼ください。

地域連携室　　ＴＥＬ　044-299-4781（代表番号） ※電話対応時間：　平日9：00～17：00　土曜日9：00～12：30

2. 診療情報提供書・看護サマリーまたはＡＤＬ表・各種データ・薬剤内容の情報をＦＡＸにて提供お願いいたします。
   情報を頂いてから、なるべく速やかに受け入れの可否についてお電話にてご連絡いたします。
   また、必要時当院よりご家族に情報収集のため面談をさせていただく場合がございます。
3. 転院の日時を調整させていただき、ご連絡させていただきます。
   決定した日時及び持ち物などはＦＡＸにてお知らせさせていただきます。

転院の受入れ基準

酸素吸入	○	人工呼吸器	要相談	喀痰吸引	○	気管切開	○
吸入	○	経鼻栄養	○	胃ろう	○	中心静脈栄養	○
ＣＶポート	○	インスリン	○	ストーマ	○	膀胱留置ｶﾃｰﾃﾙ	○
透析	要相談	リハビリ目的	要相談	腎ろう	○	膀胱ろう	○
褥瘡	○	神経難病	○	抗がん剤	要相談	認知症	要相談
精神症状	要相談	精神科	×	看取り	要相談	小児科	○
婦人科	○						

どんな方が入院できるか

- 比較的軽症でも、様々な事情で入院が必要思われる方。
- 急性期疾患後や手術後、または生活動作は可能だが、もう少しＡＤＬを改善させたいなどリハビリが必要な方。
- 介護者の病気や介護疲れなどレスパイト目的。
- 急性期治療後の退院調整が必要な方。
- 簡単な全身状態の評価や検査の希望がある場合。

入院期間は、病状によりますが最大６０日を限度としております。
※当院では差額ベッド代は一切いただいておりません。

お支払いに不安のある方は、地域医療連携室相談課までお気軽にご相談ください。

STAFF「もうひとつの顔」

全国大会出場を目標に女子バレーボール「花梨チーム」で奮闘

川崎協同病院　地域包括ケア病棟 看護師　**宮田洋子**

全国大会出場に向け日々行われる練習

川崎協同病院に入職し、１０年目になります。現在は、地域包括ケア病棟に勤務しています。

２０１１年に職場の仲間でバレーボールをする「花梨チーム」を立ち上げ、週１回水曜日にみんなで練習をしています。当院が加盟している全国組織である民医連の主催で、年１回関東甲信越大会があり、３年に１回は全国大会が開かれます。

病棟での勤務風景

全国大会出場を目標にチームで練習に励んでいます。練習の甲斐あって、２０１４年には全国大会に初出場しました。予選リーグを勝ち上がりましたが、決勝トーナメントは残念ながら１回戦負けでした。悔しい思いもありましたが、振り返るとみんなでそろって練習するのが難しいなか、チーム全員が本当に頑張っていたことを思い出します。

来年は全国大会の年です。「勝ちすすみたい」という気持ちを持ち続け、チーム一丸となって日々練習に励んでいます。看護師の仕事は本当にハードですが、バレーは日々の体力作りにもなり、これからも続けていきたいと思っています。

STAFF「もうひとつの顔」

自分も満足、人にも喜ばれる陶芸

川崎協同病院　総合診療科 医師　**民部 貴士**

往診をする民部医師

私の趣味は陶芸です。月に１回程度、陶芸教室に通って作品を作っています。小さいころから自分の手で何かを作るのが好きでした。それが、大学生になり、社会人になり作る機会が減っていきました。何かものづくりがしたいなあと思いながらも貴重な休日に何かする、ということができずにいました。

陶芸を始めたきっかけは２年前に体調不良で一時休職したことでした。心身を休めるために時間ができたので、思い切って始めてみたところ、とても楽しくて今でも続けています。

作るものを決めて、土から形を作り出していく。なかなか思った形のものは作れませんが、満足いくものができたときにはとても充実した気持ちになれます。作ることに没頭できることが忙しい合間のいいリフレッシュになっています。

作ることそのものが楽しいのですが作品はどんどんたまっていきます。そのうち家に作品を置けなくなって困っていたところ、病院でもらってくれる人ができたため、ときどき病院に持っていき“おすそ分け”しています。もらってくれた人方に「使っているよ」と言われるとうれしくなります。

気持ちを切り替えをして、診療に臨んでいくためにも今後も趣味を継続していきたいと考えています。

健診室ってどんなトコ？

～待ち時間を最小限に、スムーズな健診を目指して～

ピンクを基調にした明るい外来

健康診断を行う健診室では、企業健診予約および一般健診受診者予約、健診受診者当日ご案内、健康診断各種個人票作成等をしております。現在４人の事務スタッフと３人（交代制）の看護師でこの業務にあたっています。

健診はすべて予約制で、月曜日～金曜日の午前中に実施しています。当院で実施している健診内容は、国民健康保険などの特定健診、後期高齢者健診、協会けんぽ健診、雇い入れ健診、被爆者健診、アスベスト健診、じん肺健診、有機溶剤健診、ドック等多岐にわたります。

オプション検診では婦人科系の乳がん検診や子宮がん検診、睡眠時無呼吸症候群検査、前立腺がん検診、腹部エコー、胃がん検診（胃内視鏡、胃エックス線）などがあり充実しています。

乳がん検診、子宮がん検診では近隣の医療機関とも提携契約して実施しています。予約してくる受診者が心身ともにリラックスしてスムーズに健診項目を受けられるよう、検査室、婦人科、放射線科、内視鏡室などと連携し、事前申し送りをして「待ち時間を最小限に」を心がけ、次回も川崎協同病院で健康診断を利用してもらえるよう業務に取り組んでいます。

今後はストレスチェックを含めた企業向け健康診断の拡大や一般受診者のニーズに応じたオプション検診の追加などを進めていければと考えています。

健診室　主任　大岡 鉄平

検査科ってどんなトコ？

～症状の原因を正確に探り、医師の判断をサポート～

超音波検査をする検査技師

検査科には、血液検体を扱う検体検査や、心電図などの生理検査といった検査を専門に行う検査技師が勤務しています。患者さんが体調不良により病院や診療所で医師の診察を受けたときに、医師は何が原因なのかを探る手段として症状から様々な検査内容を考えます。その検査を実施し検査結果を医師に返すのが仕事です。

検査科では患者さんからさまざまな質問を受けます。よくきかれるのが、「異常があった場合は？」です。これに対しては、緊急度によって対応が違うこともありますが、すぐに対応が必要ほどの異常を認めた場合には、直ちに医師に連絡しています。心電図の異常に際しては、医師の判断を仰ぐまでは患者さんに動かないようにお願いすることもあります。緊急度によりその対応はさまざまです。

また、「検査結果をこの場で知りたい」と言われることもあります。しかし、残念ながら検査技師が直接患者さんに検査結果を伝えることはできません。検査結果はあくまで診断の補助となるものであり、医師は症状や検査結果をふまえて総合的に診断します。

検査科スタッフは、患者さんに何の検査を行うか説明し、納得してもらってから検査を行うよう心がけています。それは、患者さんの理解と協力を得られることで正確かつ精度のよい検査結果を提出できると思っているからです。

検査科　科長　永塚 剛

地域連携室の

おじゃまします！

愛情こもった介護で、笑顔こぼれる家族の明日を

葵の園川崎南部

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。今回は「介護老人保健施設葵の園川崎南部」です。

（取材：地域連携室　川口洋子　高橋靖明）

「介護老人保健施設葵の園川崎南部」（医療法人社団葵会）は、川崎区の臨海部にあり、京急大師線の終点小島新田駅から歩いて3分くらいのところにあります。

同法人が経営するＡＯＩ国際病院と同じ敷地に建っていて、３階建てです。一階には広いエントランスに談話スペースが、３階には中庭などもあり、とても開放的で明るいつくりになっています。入所が 100 床、その他にショートスティが5床、デイケアは定員 40 人です。

老人保健施設は、入所が要介護1以上の人、ショートスティ・デイケアは、要支援以上の人が対象です。入所者の要介護の平均は約３．５です。急性期の治療を終えたあとで病状が安定していて、介護や看護が必要な人や家庭復帰の準備のために介護やリハビリが必要な人を受け入れています。

「葵の園川崎南部」では、自立支援を重視していて、本人ができることはできるだけ自分自身でやっていけるようなケアを心掛けるよう、職員の意識改革を行っているそうです。

また、入所を希望している人の待期期間をできるだけ少なくして、利用できるよう稼働率を上げ、少しでも多くの人が利用できるよう努力しています。

園内での過ごし方については、納涼祭をはじめフラダンス、クリスマス、ライブ、合唱といった行事や体操・カラオケ・風船バレーなどのレクリエーションなど、利用者に楽しんでもらえる企画をスタッフは考えています。

最近では余暇の充実を図るため、園芸や書道といったクラブ活動にも力を入れています。また、一昨年 12 月から

施設で看取りを行うようになりました。今後はこうした問題に積極的取り組んでいき、利用者さんにとって、慣れ親しんだ環境で安心して最期を苦痛なく過ごせるようなお手伝いをしていきたいと考えています。

●川崎協同病院へひとこと・・・

協同病院から入所される方も多く、お互いに密に連携しながら利用者にとって安心できる良い支援をしていければと思っています。

●おじゃまして・・・

病院が隣にあり、何かあれば受診や入院ができるというのは頼りになり強みだと思いました。

医療法人社団葵会
介護老人保健施設　葵の園・川崎南部
事務長　鮑　占軍　事務次長　島村　一彦
川崎市川崎区田町２－９－２
０４４－２７７－６６００

広報係のひとりごと

新年明けましておめでとうございます。昨７月から広報委員に就任しました、協同病院医事課の玉沖聖（たまおきさとし）と申します。ふだんは協同病院の４階で入院担当をしています。医事課の仕事は少しイメージしにくいかもしれませんが、簡単に言えば「日々の医療行為を収益に変える」ことです。あまり表立つことはありませんが、やりがいもあれば難しい面もあり、病院を形作るための大切な業務を担っています。新しい年も始まり、次年度には『笑顔のひろば』の紙面もリニューアルされる予定です。広報委員会の活動を通じて、医事業務だけでは学べない多くのことを知っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

医事課　入院担当事務　玉沖 聖

笑顔のひろば
vol.35　新春号
発行：2017 年 1 月 25 日　川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5　TEL:044-299-4781（代）　FAX:044-299-4788　http://www.kawasaki-kyodo.jp